

東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年7月 東臼杵農林振興局
(東臼杵南部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 【日向市】農業経営指導士に感謝状を贈呈
 - 2 【門川町】農業経営指導士委嘱状を授与
 - 3 【日向市】きゅうり生産者・関係者が見守る中、新規就農研修開講式が開催
- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 3～6)
 - [総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]
 - [専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]
 - 1 【全域】農業者研修（農作業安全研修）の実施
 - 2 【門川町】若手畜産経営体に対するライフプラン作成支援
 - 3 【椎葉村】畜産経営体の経営改善に関する検討会の開催
 - 4 【全域】雇用就農者への農業者研修（ベーシック研修）受講案内を実施
 - 5 【日向市・門川町・美郷町】5件の就農相談に対応
 - 6 【日向市・美郷町】日向地域営農推進連絡会議担い手担当者会議が2市町で開催
 - 7 【門川町】特定技能外国人材に係る意見交換会を開催
 - 8 【全域】地域キャラバン及び担い手担当者会議で新規就農者育成・確保の課題を検討
 - 9 【美郷町】牛のサシバエ対策試験を実施
 - 10 【美郷町】今年の夏はモ～暑い!牛の暑熱環境をサーモグラフィーカメラで測定
 - 11 【日向市・門川町・諸塚村・美郷町】スイートピーの種子処理を指導
 - 12 【美郷町】くり園地でのドローンによる薬剤散布を実証
 - 13 【美郷町】美郷町栗部会総会が開催
 - 14 【日向市】へべすの病虫害防除や収穫等の管理技術を指導
 - 15 【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマトの適期防除及び農薬の適正使用を指導
 - 16 【美郷町】冬春ミニトマトの害虫情報の提供と熱中症対策について指導
 - 17 【椎葉村】ほうれんそう専門部で生産者相互のほ場巡回及び交流会を開催
 - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 7～8)
 - 1 【全域】日向地区荒茶品評会の審査を実施
 - 2 【美郷町】水稻の畦畔管理作業の省力化に向けた資材の設置
 - 3 【日向市】令和7年度千切り大根栽培講習会で栽培指導
 - 4 【日向市・諸塚村・美郷町】ほおずきウイルス対策等について指導
 - 5 【門川町】園芸品目における高温対策の意見交換を実施
 - 6 【日向市・美郷町】冬春きゅうりの産地戦略ビジョン進捗を共有
 - 7 【日向市・門川町・美郷町】スナップえんどうの農薬に関する情報提供
 - 8 【椎葉村】ミニトマト目揃え会で病虫害の注意喚起を実施



東臼杵南部農業改良普及センター
ホームページ

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 【日向市】 農業経営指導士に感謝状を贈呈

14日、農業経営指導士として1期3年間貢献いただいた山本孝志氏に、知事からの感謝状を所長から贈呈しました。山本氏は、マンゴー、へべす等、地域の特産品を栽培し、就農希望者の研修受入れや栽培指導、普及センター職員の農家研修においても御協力いただきました。

今後も、ますますの御活躍を期待しています。



【感謝状の贈呈】

2 【門川町】 農業経営指導士委嘱状を授与

14日、門川町のへべす農家である川崎泰富氏に、知事からの委嘱となる農業経営指導士の委嘱状を所長から授与しました。

今年度から3年間、地域農業のリーダーとして、後継者育成や産地発展に向けた御活躍を期待します。



【委嘱状の授与】

3 【日向市】 きゅうり生産者・関係者が見守る中、新規就農研修開講式が開催

23日、JAみやざき日向地区本部で、生産者9名、関係者15名が出席し、施設胡瓜専門部会で受け入れる新規就農者研修の開講式が開催されました。

式では、受入主体であるJAみやざき日向地区本部長から「5年ぶりの研修生受入れであり、就農の夢に向かい、しっかりとした計画を立て、確実に実行して欲しい」と激励の言葉がありました。

研修生は、美々津で施設きゅうりの就農を目指し、8月から部会長のもとで1年間研修を行う予定です。

今後も関係者とともに研修生を見守りながら、1年後の就農に向けた取組の支援を行っていきます。



【研修生あいさつ】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミミズ、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]

1 【全域】農業者研修（農作業安全研修）の実施

28日、普及センターで宮崎方式営農支援体制農業者研修として「農作業安全」を開催し、農業者6名の参加がありました。この研修は、農業大学校農業総合研修センターが実施するリカレント研修をWEB受講するもので、後半の演習では、参加者間で農作業リスクの話し合いが活発に行われ、有意義な研修となりました。

今後も引き続き農業者基礎研修を開催し、農業経営者等の能力向上を支援していきます。



【農業者研修】

2 【門川町】若手畜産経営体に対するライフプラン作成支援

1日、門川町の若手畜産経営体に対し、資金繰り計画とライフプラン作成の重要性について説明を行いました。

経営主は現在、経営と子育ての両立が大変な時期ではありますが、将来設計を見据え、経営安定に向けた支援をしていきます。

3 【椎葉村】畜産経営体の経営改善に関する検討会の開催

4日、JAみやざき日向地区本部で、畜産経営体の経営改善に向けた関係者の検討会が開催されました。検討会では、これまでの経緯と現状課題を踏まえ、飼養管理等の増体や収益に直結する技術支援と、経営分析に基づく経営支援の両輪で、課題解決に向けた支援方針を決定しました。

今後とも経営改善効果が得られるよう、支援していきます。

4 【全域】雇用就農者への農業者研修（ベーシック研修）受講案内を実施

14日、雇用就農者に対し宮崎方式営農支援体制農業者研修ベーシック研修への参加をよびかけるため、雇用主との意見交換を行いました。雇用主からは、雇用就農者のスキル向上に役立つのであればと、研修参加への理解をいただきました。

独立就農、親元就農だけでなく、雇用就農者についてもスキルアップの機会が得られるよう、引き続き周知を図っていきます。

5 【日向市・門川町・美郷町】5件の就農相談に対応

7月は、日向市で2件、門川町で1件、美郷町で2件、計5件の就農相談があり、関係市町およびJAと連携して対応しました。

相談者の多くは施設野菜を希望しており、内容は、品目の選定など初期段階のものや、具体的な事業計画作成の相談と様々でした。

初期段階の方には、希望する品目構成に基づいた簡易な収支計画や体系図の作成を提案し、新たな栽培方法に挑戦する方には、小規模での試験栽培後、その結果を踏まえて今後の取組を検討するよう助言しました。

また、継続対応中の1名には、就農に向けた準備や手続きに係るスケジュールの作成支援を行いました。

今後も、相談者の状況に応じた支援を継続していきます。

6 【日向市・美郷町】日向地域営農推進連絡会議担い手担当者会議が2市町で開催

2日に日向市役所、7日に美郷町役場で、日向地域営農推進連絡会議の担い手担当者会議が開催され、いずれも関係者7名が出席しました。

会議では、各市町から就農相談の状況や新規就農者に関する情報の共有がなされ、今後の支援方針について意見交換を行いました。

普及センターからは、就農相談から定着までの支援スケジュールや、市町推奨品目に基づく経営モデルの作成について提案し、今後はその提案に基づき関係機関が連携して取り組むこととなりました。

今後も定期的に会議を開催し、新規就農者への支援および支援体制の充実に努めます。



【担い手担当者会議での協議】

7 【門川町】特定技能外国人材に係る意見交換会を開催

4日、門川町内のきゅうりハウスおよび門川町役場で、特定技能外国人材に関する意見交換会を開催しました。参加者は、昨年度視察を受け入れていただいた県外の先進事例関係者、県内で導入を検討中の生産者と関係者、管内のきゅうり・トマト生産者、県及び町の関係者の18名となりました。

7月から特定技能外国人材（インドネシア人4名）を受け入れている生産者は、「雇用して数日しか経過していないが、即戦力として活躍しており、人件費は割高だが、十分に見合った働きをしている」との評価がありました。

今後は、地域内または県内での周年雇用について、関係者と連携して検討を進め、雇用経費の軽減や外国人材の一層の資質向上につなげていきます。



【農場長から説明を聞く外国人材】

8 【全域】地域キャラバン及び担い手担当者会議で新規就農者育成・確保の課題を検討

31日、普及センターで、県農業再生協議会構成員6名、日向地域の担い手担当者12名の計18名が出席し、「地域キャラバン」が開催されました。

会では、県担い手農地対策課や県農業振興公社から、担い手に関する現状や課題、活用可能な各種事業について説明があり、つづけて、本地域における新規就農者の確保・育成に向けて、活発な意見交換が行われました。

また、会議終了後、日向地域の担い手担当者で会議を開催し、新規就農者支援に向けた活動スケジュールや、市町村毎の推奨品目に係る経営モデルの作成等について普及センターから提案を行いました。

今後は、これらの取組について関係者と連携しながら、新規就農者の確保・育成に努めます。



【担い手担当者による協議】

9 【美郷町】牛のサシバエ対策試験を実施

15日、美郷町で、農薬メーカー6名、関係者5名と生産者1名で、牛舎のサシバエ発生抑制のため、牛舎周辺の雑草抑制対策試験を実施しました。試験では、慣行の機械による除草区を対象区に、2種類の除草剤の処理試験区を設けました。また、農薬メーカーの担当者からサシバエの生態や吸血による牛への影響、除草剤の少水量散布技術などの説明が行われました。生産者は、除草剤の抑草効果がどの程度持続するか高い関心を示していました。今後は定期的に雑草調査と補虫調査を行う他、労力調査や経営評価を調査し、管内への普及技術として検討していきます。

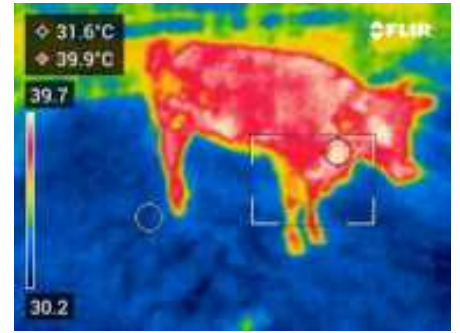


【除草剤散布指導を受ける生産者】

10 【美郷町】今年の夏はモ～暑い!牛の暑熱環境をサーモグラフィーカメラで測定

14日、美郷町の重点対象農家1戸で、暑熱対策の取組状況確認とサーモグラフィーカメラを用いた牛舎内の温度計測を実施しました。測定日は、扇風機で送風している牛舎でも、母牛の表面温度が40℃を超えており、牛舎内の暑熱ストレスが高い状況を「見える化」できました。

想像以上の高温であったため、生産者は風力を上げるための扇風機の掃除など牛舎環境を見直すきっかけとなりました。



【母牛の表面温度確認】

11 【日向市・門川町・諸塚村・美郷町】スイートピーの種子処理を指導

11日、JA西郷支店でスイートピー種子冷蔵講習会が開催され、生産者6名、関係者2名が出席しました。

普及センターからは、種子冷蔵前の処理の手順、定植までの冷蔵管理の注意点や資材消毒剤の情報について周知しました。その他、今年度実施予定の展示ほで試験を行う高温対策資材についても、情報共有を行いました。

種子冷蔵については共同の保冷库を使用することもあり、生産者同士で日程調整も行われ、スムーズな冷蔵処理となるよう作業計画が立てられました。

今作は高温障害の発生が軽減されるよう、新たな資材の導入や事業活用を検討していきます。



【スイートピー種子冷蔵講習会】

12 【美郷町】くり園地でのドローンによる薬剤散布を実証

8日、美郷町南郷鬼神野地区（1か所、約60a）で、きじの防除組合による薬剤散布実証が昨年度に引き続き実施されました。

普及センターは、散布前の打合せに参加し、農薬の使用方法等について確認を行いました。またJA日向第2センターとともに現地で散布状況の確認を行いました。

今後は8月に2回目の薬剤散布、8月下旬頃から9月に園地で虫害発生状況を調査し、防除効果の評価を行います。



【くり園でのドローン農薬散布】

13 【美郷町】美郷町栗部会総会が開催

17日、西郷ニューホープセンターで、生産者35名、関係者12名が参加し、美郷町栗部会総会が開催されました。

はじめに出荷量等の優良者表彰が行われ、令和6年度事業実績等や、これまで検討を重ねてきた産地ビジョンが承認されました。また、普及センターからは栗の結果習性、落果の要因と対策、病虫害防除等について講習を行いました。

今後も収量、品質向上に向け支援を行います。



【美郷町栗部会総会】

14 【日向市】へべすの病虫害防除や収穫等の管理技術を指導

25日と28日に日向市内の露地へべす園地4か所で、生産者延べ33名、関係者2名が参加し、JA日向平兵衛酢部会の支部別講習会が開催されました。

講習会では、JAから収穫や病虫害防除等の時期的管理に関する説明が行われました。

普及センターからは、梅雨時期以降の気象状況や病虫害の発生状況に合わせた管理等について、補足説明を行いました。

また、平兵衛酢部会内のアドバイザーからも、篤農家の視点で他の生産者に対する助言が行われました。



【露地へべす支部別講習会】

15 【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマトの適期防除及び農薬の適正使用を指導

15日、JAみやざき日向地区本部で、生産者20名、関係者26名が出席し、第11回JAみやざき日向地区本部冬春ミニトマト専門部会通常総会が開催されました。

総会では、令和7年度（令和6年8月1日～令和7年7月31日）事業実績及び令和8年度（令和7年8月1日～令和8年7月31日）事業計画等が全会一致で承認されたほか、産地戦略ビジョンの取組内容の活動実績の報告、品種毎の単位収量上位者の表彰が行われました。

普及センターからは、令和8年産の防除暦の説明を行い、農薬の使用法の注意点や成分毎の使用回数等について改めて周知を行い、農薬の適正使用や適期防除を啓発しました。



【JAみやざき日向地区本部冬春ミニトマト専門部会通常総会】

16 【美郷町】冬春ミニトマトの害虫情報の提供と熱中症対策について指導

25日、JA西郷支店で令和7年産冬春ミニトマト専門部会美郷支部の実績検討会と情報交換会が行われ、生産者10名、関係者5名が出席しました。

はじめにJAから、数年ぶりに販売金額1億円越えを達成したとの報告がありました。次に、生産者から今作の反省と来作の抱負がそれぞれ述べられました。

普及センターからはトマトキバガの注意喚起と農作業中の熱中症対策について情報提供を行いました。

来作も定例会を通じた情報共有等を行いながら収量品質向上につなげられるよう支援していきます。

17 【椎葉村】ほうれんそう専門部で生産者相互のほ場巡回及び交流会を開催

14、15日の2日間、ほうれんそう生産者の情報共有を目的に、生産者相互のほ場巡回と交流会を開催し、生産者11名、関係者3名が参加しました。

各戸1ほ場ずつを巡回し、園主自らによる説明のあと、参加者との活発な質疑応答が行われました。

近年、夏期高温時の発芽不良や生育のばらつきが課題となっていることから、播種前後のかん水方法や暑さ対策の工夫事例を交換しあうことで、かん水量の見直しや遮光資材の検討をするきっかけになるなど、本格的な暑さを迎える前の参考として、良い刺激になったようです。

駐在では、引き続き生産者相互の情報共有を進めながら、生産性の向上と産地活性化に向けた産地ビジョン策定を支援していきます。



【園主の説明を熱心に聞く参加者】

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 【全域】日向地区荒茶品評会の審査を実施

17日、JA西郷支店で、関係者14人が参集し、日向地区荒茶品評会が開催されました。美郷町から11点、諸塚村から3点の計14点の煎茶が出品され、普及センターは専技や茶業支場研究員と共に審査を行いました。

審査では、外観、香気、水色、滋味の4項目を審査し、上位10点が県の共進会へと出品されることになりました。

全体講評では、渋みの強いお茶が多く、専技から製造中の茶温管理や、肥料の適期施肥ができていない可能性について指摘がありました。今回の評価については、関係者と協議を行い、日向地区の製茶技術向上に活用していきます。



【水色の審査】

2 【美郷町】水稻の畦畔管理作業の省力化に向けた資材の設置

3日、美郷町北郷で、関係者12名と生産者2名で水田の畦畔管理作業省力化に向けた、抑草シートとセンチピードグラスを2ほ場の畦、約10mに設置しました。

センチピードグラスは、ほふく性の芝草で、アレロパシー*により雑草の侵入を抑えることや、草丈が低いため草刈り回数が抑えられることから畦畔管理の省力化が期待されます。また、今回設置する抑草シートはセンチピードグラスが優先するまでの抑草が可能で、センチピードグラスの効率的な定着が期待されます。

炎天下での設置は大変でしたが、生産者からは水田の担い手が減少し畦畔の草刈りが大きな負担となっていることから、雑草対策として有効であれば普及していきたいとの話がありました。

今後は、センチピードグラスの生育及び雑草の抑制状況について確認し、省力化の効果と普及性を確認していきます。



【センチピードグラスの定植】

*アレロパシー（ある植物から放出される物質が、他の植物や微生物に影響を及ぼす現象）

3 【日向市】令和7年度千切り大根栽培講習会で栽培指導

10日、JA美々津支店で千切り用大根の栽培講習会が開催され、生産者21名、関係者4名が出席しました。

はじめにJAから販売実績の報告と栽培記録に関する説明が行われました。

普及センターからは栽培講習を行い、軟腐病や大雨への対策と農薬の効果的な使用について周知しました。また、農作業中の熱中症のリスクと対策、適正な農薬の使用方法、農業セーフティネットの相談窓口の案内に関する資料を配布し、説明を行いました。

近年の予想のつかない天候の中での栽培は、難しさもありますが、安定した栽培を行えるよう支援していきます。



【千切り大根栽培講習会】

4 【日向市・諸塚村・美郷町】ほおずきウイルス対策等について指導

24日、JA南郷支店でほおずき8月出荷目揃え会が開催され、生産者11名、関係者5名が出席しました。

市場関係者からの情勢報告や、現物を見比べながらの目揃えが行われ、生産者も積極的に質問し、出荷に向けた意識の統一が行われました。

普及センターからはウイルス対策として収穫後の残さ処理や、実生苗の活用推進について説明を行いました。

今後は、来作に向け、土壌消毒等のウイルス対策や生産者からの要望があがった施肥の見直しを関係者と協力して行っていきます。

5 【門川町】園芸品目における高温対策の意見交換を実施

17日、JA門川支店で生産者17名、関係者4名が出席し、門川町蔬菜園芸振興会研修会が開催されました。

研修会では、肥料メーカーからバイオスティミュラント資材について、普及センターから葉面散布技術及び高温対策技術や熱中症対策について説明を行いました。

生産者からは、夏季の作業は熱中症のリスクが高いため、空調服の活用や、早朝と夕方への作業分散などの対策の実践状況や、栽培における高温対策の一つである遮光・遮熱剤についても、塗布後の持続性や遮光効果等についての自身の経験など、生産者同志の意見交換が行われ「自分もやってみよう」「試してみようかな」といった声があがり有意義な研修会となりました。



【門川町蔬菜園芸振興会研修会】

6 【日向市・美郷町】冬春きゅうりの産地戦略ビジョン進捗を共有

23日、JAみやざき日向地区本部で、生産者9名、関係者16名が出席し、第3回JAみやざき日向地区本部施設胡瓜専門部会通常総会が開催されました。

総会では、令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画等が全会一致で承認されたほか、産地戦略ビジョン進捗について生産者、関係者への共有が行われました。普及センターからは、令和8年産の防除暦について説明し、農薬の適正使用および適期防除について指導を行いました。



【JAみやざき日向地区本部施設
胡瓜専門部会通常総会】

7 【日向市・門川町・美郷町】スナッフえんどうの農薬に関する情報提供

24日、JAみやざき日向地区本部でスナッフえんどう実績検討会が行われ、生産者11名、関係者6名が出席しました。

初めにJAから販売実績について説明があり、数量32t（前年対比79%）、金額3,490万円（84%）と厳しい実績となった報告がありました。作付け面積の減少や、高温対策のための定植時期の後進化により収穫開始の遅延が影響したとのことでした。

個別実績をみると、10aあたりの平均収量は1,709kg（105%）と前年より伸びていました。また、種苗メーカーから前期実績を踏まえた栽培講習が行われ、普及センターからはR8年産の栽培暦と防除暦について説明を行いました。生産者からは活発な質問が行われました。

8 【椎葉村】ミニトマト目揃え会で病虫害の注意喚起を実施

25日、JA椎葉支店営農センターで夏秋ミニトマトの出荷目揃え会が開催され、生産者16名、関係者5名が参加しました。

JAから収穫時の色合いや出荷に関する連絡事項の説明があり、普及センターからは害虫対策としてトマトキバガ等の注意喚起を行いました。生産者は、出荷された果実の色合いを見ながら意見交換を行い、出荷時の適正な色合いを確認していました。これからますます出荷量が増加していく見込みです。



【害虫対策の注意喚起】